

平成19（2007）年3月8日 文教市民常任委員会

1 少人数授業について

2 子ども安全安心について

No.48 灰垣委員

少人数授業と学校・園安全推進、確認も含めてご質問をさせていただこうと思います。

少人数授業、3年生、4年生で1学級35人を超えるところに指導員を1名派遣するという事で予算が計上されてますけれども、平成16年、大阪府が38人学級という打ち出しがあつて、そこから高槻独自で38人を超える、35人でしたか、指導員を配置するという、このまず1つ、経過をちょっと16年から18年度、19年度に至る経過みたいなものをちょっとお聞きしたいということが1点。

それから、この少人数授業を行うことによって、成果のようなものが当然出てきていると思うんですけども、また成果、課題も含めて、あれば教えていただきたいと思います。

それから、学校・園の安全推進のところ、これも私も決算委員会でちょっとお話をさせていただきましたけれども、セーフティー・ボランティアの皆さん、2,000人を超えているということを知っていますが、この方たちに対して教育委員会もしくは学校側から、お礼といいますか、敬意を表するというか、そういったものが必要でないかということをお話しさせていただきましたけれども、その後どのように対応していただいているかなということをお話しさせていただきましたけれども、防犯教育の充実というふうにもおっしゃってます。この防犯教育というのはどういったものなのかをちょっとお聞きしたいと思います。

以上です。

No.49 樽井指導課長

4点ほどのご質問であったかと思えます。

まず、第1点の少人数授業の経過、経緯についてということでございますが、委員からもありましたが、これは大阪府教育委員会が平成16年度から19年度にかけて小学校1、2年生の学級編制を順次35人学級に移行していくと、そういう施策を展開しております。具体的には、平成16年度が小学校1年生で38人学級、17年度には小学校1年と2年で38人学級、そして今年度が1年生が35人学級、2年生が38人学級、来年度で35人学級が完成するというような年次計画になってございます。

高槻市におきましては、小学校、幼稚園、保育所との段差の解消を目指して、小学校生活をスムーズにスタートさせるために、平成16年度から独自に小学校1年生において1学級が35人を超える学級を有する学校に指導員という形で少人数指導員を派遣しているところでございます。平成17年度には1年生と2年生に、そして18年度には2年生と3年生に35人を超える学級を有する学校に指導員を派遣しているということでございます。そういった経緯がございまして。

それから、2点目の今までの少人数授業にかかわっての成果、課題でございますが、指導員の配置

校では学級を分割して少人数指導を実施したり、あるいは担任とT・Tという複数教員による指導を実施したりしております。このような指導を通して子どもたちの学習定着状況、あるいはつまづいている状況等を細かく把握することができているというふうと考えております。児童一人一人の学習状況に応じたきめ細かな指導によって、子どもたちの学習意欲、学力等、それが向上してきているという成果が見られているという報告を受けております。

また、生徒指導の面でも、これ給食とか清掃にも入っていただいております。そういったことから、基本的な生活習慣を定着させるという意味合いでも効果があったと。それから、多くの目で見ますので、児童の思いを受けとめたり、いじめ等を早期にキャッチしたり、そういったことでも効果が上がっているというふうに認識しております。

課題というものについては、これ非常に評判がいいんですけれども、我々サイドで言いますと、担任教師と、それから指導員との連携といいますか、コミュニケーションといいますか、そういったことをきちんとやっていて、目的を一つにして子どもの指導に当たっていくと、そういうことを今もやっておりますけれども、今以上にやっていく必要があるだろうというふうに思っております。

3点目は、セーフティー・ボランティアに関してでございますが、ボランティアの方々も2, 250人ほどになってるんですけれども、年間3度ほど研修会を持っております。そのうち、今年度は一つの研修会で各ボランティアの代表の方に市長の方から感謝状を送らせていただきました。各学校ではその感謝状をもとにその他のボランティアの方に伝達をする工夫、学校の見えるところに掲示をしたり、そういった意味合いで感謝をあらわしていると、学校によりましたら子どもたちが運動会等にボランティアの方にお礼状という形で渡していると、そういう学校もございます。

4点目は防犯教育のことでございますが、各学校におきましては特別活動という時間を中心に子どもたちに日常的に防犯教育を実施しております。1つは、犯罪に遭わないようにする、予防的な教育でございます。そのために通学路の学習、あるいは危険箇所の学習、そういったことを実際に通学路を歩いたり、安全マップを見て危険箇所を確認したりしているところでございます。

それからもう1つは、実際に遭ってしまったときにどうするのかということで、これはキャッププログラムを使ったり、あるいは警察から防犯教室という形で全小学校1回は行っていただいているんですけれども、危険な目に遭ったときの対処の仕方、大声を上げるとか、すぐ近くのお家に逃げ込むとか、防犯ブザーを渡しておりますので、防犯ブザーを適切に使うとか、そういった危険な場面に遭ったときの対処方法、そういう教育をしているところでございます。

以上でございます。

No.50 灰垣委員

少人数ですけれども、16年度から始まって、例えば今年度18年度は1年生が35人ということで少人数学級という形になって、指導員はいらっしゃらないということになります。各学校、要するに35人を超えると2学級になるという流れになっていると思うんですけども、41校の小学校、ちょっと大体全部一回調べてみたんですけども、これは年度途中できつと児童数がふえたんだと思うんですけども、一番多いところで高槻小学校が1学級平均すると、ここは2学級ですから、36人ということで35人を超えて

るんですが、これはきっと年度でふえて、年度途中ではこの分割はしないということになるんだと思うんですけども、少ないところは18人という学級もあるんです。指導員がいらっしゃるということは、先ほどおっしゃったような成果も如実にあらわれてくると思います。先生と指導員の方と、子どもたちにとっても受け皿みたいなことができますから非常に成果もあらわれてくると思いますけれども、35人になって、また35人がマックスですけども、通常は、この高槻小学校は例外だと思うんですけども、この格差みたいなものが学校によってちょっと出てきてるといふか、それと指導員がいらっしゃらなくなって少人数学級ということになったときのこれが目的にならないようにということを私は一つ申し上げておきたいと思ってます。あくまでも目的というのは学校、皆さんがおっしゃるように、学習意欲の向上であるとか、基本的な学習習慣を身につけるとか、学力の定着を図るとか、生きる力をつけるとか、こういったお答えが返ってくるんだと思うんですけども、どこまでいってもこの少人数にすることが目的にならないようにということを私は申し上げたいと思ってます。

この2学期制においても、2学期制を実施することが目的になってしまうようなことにならないようにということを、5日の本会議でもお話がありましたけれども、これ2学期制というのは、あくまでも枠組みを変えると、環境を変えることによって学校教育改革につながると、これは学校の教員の方の意識の改革から始まって、子どもたちの意識の改革にもつながり、学校教育改革につながると、私はこれが最大の目的だと思ってます。そういう意味で、この少人数学級ということができ上がった時点で、もうこれで一つの完成だということでないということを認識をしていただきたいなと思ってます。

それと、きめ細かなというお話がありましたけれども、35人の学級と18人の学級ではおのずと変わってくるわけですから、そういった部分もよく教育委員会として見きわめて、手を入れなくてはいけないところにはまた対策を考えると、こういったことのきめ細かさも必要じゃないかと思ってます。

16年度に少人数授業で指導員の方がいらっしゃる授業を受けられた方がもう3年たってますから4年生になってるんでしょうか。だから、そういった流れみたいなものがあるって、そのうち3年たって、今の4年生はどうなのかと、数字ではなかなかあらわせないと思いますけれども、いじめの数が減ったとか、不登校の数が減ったとか、学力の向上が数字としてあらわれるとか、こういったものも見きわめていく必要があるんじゃないかと思ってます。そういうふうに指摘をさせていただいておきます。

それから、安全の部分ですけども、今のお話の中では、予防と対応という、対処というふうにとらえたらいいのかなと思いました、聞いてて。安全マップを使って危険箇所をあらかじめわかって、そういったときにはこういうところではどうしたらいいかという、予防ということを教えていると、また、いざそういう事態に接したときには、キャッププログラム等も含めて、対処の方法を教えているということですから、これも定期的に、なかなか人間というのは聞いてるとき、またそういった教育を受けているときというのは意識しますが、最近幸いなことに高槻もそれなりの事件が起きていないことを考えれば、緩みみたいなものが出てきますから、定期的に、ただ授業に差し支えないようにということもありますけれども、定期的にこういうのも必要でないかと思っています。

それと、セーフティー・ボランティアの方たちに対してですけども、地域の防犯力みたいなんでこのセーフティー・ボランティアということは非常に有効だと思ってますが、それ以上に地域の教育力みたいなものがここである意味で養われてくるんじゃないかと思ってます。朝いつも声をかけてくれるおばちゃん

んがいて、おっちゃんがいて、地域の子どもと児童と地域のおっちゃん、おばちゃんに限らないですが、
いてるという、この地域の教育力みたいな、地域力みたいなものが、やはり教育委員会として評価をし
て、それをまだ綿密に学校、家庭、地域というふうに、トライアングルとよく言われますけれども、この部
分もしっかりこのセーフティー・ボランティアの方にそういう感謝の思いを持った上で地域力みたいな
も高めていってほしいなということを申し上げて、私の質問は終わります。